

## どう考える財政赤字

野瀬 隆平

今回の選挙にあたって、各党はこぞって現金給付や減税など大盤振る舞いともいえる公約を掲げているが、財源はどうするのかと誰しも疑問に思う。コロナ禍という特殊な事情があるにせよ、これ以上財政赤字を増やしても問題はないのか。

そんな時に財務省の事務方のトップが、総合雑誌で「このままでは国家財政は破綻する」と題する論文を発表した。

これを機に、財政についての論議が高まってきたことは、大いに結構なことだと思う。これまで現代貨幣理論（MMT）なんて「とんでもない、怪しげな理論」だと、テレビや新聞がまともに取り上げたてこなかったのが、やっとここにきて、MMTも俎上に上り、常識的な経済理論と意見を戦わせる場が出てきた。かねがねMMTを肯定的に評価してきた者として歓迎したい。

厳しい状況のもとでは、緊急避難的に多額の財政出動も必要であると各陣営が認めざるを得なくなり、正当化する何らかの説明が必要になってきたのである。

財務次官の主張に反して、財務省のホームページには、「日・米などの先進国の自国建て国債のデフォルトは考えられない」と明記されている。借金が返せなくなるという形での「破綻」は起こらない。しかし、MMTも認めているように、インフレになるリスクは当然ながらある。

破綻の問題とは別に、将来の世代に付けを回すことになるのではと危惧する人もいる。国債という政府の負債を、後々税金を取ることで埋め合わせしようとするのならば、確かに付けを回すことになるが、自動的にそうなる訳ではない。

色々と問題があるものの、今の状況では思い切った財政出動が正しい選択だと考える。インフレについては、過去数十年にわたってデフレに苦しみ、何とかインフレにしようとして果たせなかった経緯から判断しても、あまり心配する必要はなからう。

日本のみならず世界の各国が抱えている財政問題。それぞれの国がどのように処理するのか、注意深く見守って行きたい。